「県民会議からの提案」概要版リーフレットの作成について

１　経緯・趣旨

県民からの意見を基に、県民、事業者、行政が協働して取り組むべきことをまとめた「みんなで創るバリアフリーの街づくり～県民会議からの提案～」がより分かりやすく、手に取りやすいものになるための「概要版リーフレット」の作成については、ＷＧで検討作業を進めてきたが、このたび、「誰ひとり取り残さない ともに生きる社会に向けて ～バリアフリーとSDGs～」として作成したので、報告する。

＜参考資料４　みんなで創るバリアフリーの街づくり～県民会議からの提案～＞

＜参考資料５　県民会議からの提案　概要版リーフレット（誰ひとり取り残さない ともに生きる社会に向けて ～バリアフリーとSDGs～）＞

＜参考：ＷＧからの３月報告内容（抜粋）＞

〇　ＷＧでは、「県民会議からの提案」の概要を伝えることを基本としつつ、どのように対応すれば良いか、どう気づいてもらえれば良いかということを編集作業として検討することとし、ストーリー内容を検討することとした。

〇　「概要版リーフレット」を作成する上で議論のあった、障害の社会モデルを反映し「自分事としてとらえることができ、気づきにつながるような内容・ストーリー」を検討

〇　読むことにより、「心のバリアフリー」を含め、バリアフリーの考え方を広く一般に理解していただくことにつながるようなリーフレットの作成を目指す。

２　リーフレットの内容（ＷＧからの９月報告に沿った内容）

　　〇　主人公「カンナちゃん」がケガをしたことによって、街にある様々なバリアに気づくというストーリーを元に作成した。

　　〇　「街」を俯瞰する視点から、街のイラストで様々な事例を、また、環境の側である設備が話すこととして、吹き出しをつける構成とした。

〇　子ども達が活用できるよう、読みながらバリアについて考えられるよう空白の吹出しをつけ、吹き出しに何が入るのか考えられるようにしたり、解説欄をイラストと別に設けて、イラストの中のバリアを探してもらえるようにしたりする等の工夫を図った。

〇　事例については、障害者・高齢者・妊産婦・子ども等の他、スーツケースを持っている人等、幅広く登場させ、自分事としてとらえやすくする工夫を図った。

〇　事例紹介に当たっては、街づくりに関するバリアフリーを主としつつ、４つのバリア（物理・制度・情報・意識）があることを踏まえて紹介した。

※　今後、物語バージョンを県ＨＰで紹介するなど、じっくり読んで頂けるようにリーフレットから誘導するようにしたい。

３　ホームページの活用等について

〇　じっくり物語を読んだり、解説で理解を深められるよう、今後、ＨＰを活用した工夫を図る予定

　→・物語バージョン掲載　・リーフレットに吹出しや解説がない事例等の解説掲載

・県民会議委員からのコメントやインタビュー等の掲載等　　を想定

　（「誰ひとり取り残さないともに生きる社会に向けて～バリアフリーとSDGs～」URL）

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n7j/cnt/f6880/barrierfree_leaflet.html>

〇　また、令和４年10月21日に公布され、令和５年４月１日に施行する「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」の趣旨も十分反映して共有していくこととしたい。

４　今後の予定等

　〇　各団体等における活用、周知等

　〇　並行して、ＨＰの工夫を検討、各委員依頼等、作業（年度内～予定）

　　※電子版を主として考えているため、現在、紙媒体の数は限られている状況だが、来年度以降、可能であれば、増刷等も検討

（参考）ＷＧ実施状況について

以下、ＷＧにて検討した内容について報告する。

|  |
| --- |
| （第１回ＷＧ）  日時　　令和４年２月10日（木）9時00分～11時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  〇　リーフレットに掲載する内容についての確認を行った。  〇　リーフレットを作成する上で大切にすべきであると考えるポイントについて議論し、主に以下の意見が挙げられた。  ・すべての人の人権は守られるべきものであり、尊厳を持って対等に互いに接するということ。  ・誰でも当事者になり得ることであり、決して特別なことではないということ。自らが無関係であると思わないでほしい。  ・自らが当事者であると気づくこと。  ・他者を他者として理解し、尊重すること。  ・自分も他者も大事であるということをお互い認め合うこと。  ・福祉が自分を含め全員のものであるということ。  〇　誰に向けてのリーフレットなのかについて整理し、一般県民に向けて作成し、なおかつ子どもも分かりやすいような内容にするべきであるという意見が挙がった。 |

|  |
| --- |
| （第２回ＷＧ）  日時　　令和４年３月２日（水）9時00分～11時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  〇　リーフレットとホームページの役割  　リーフレットはわかりやすくすることが大切であるが、県民会議に参加している当事者の声も大切にする必要があるので、リーフレット以外にホームページも活用することが合意された。  〇　ストーリー案  　議論の結果、以下の３つのストーリー案のいずれかでまとめていくことが合意された。  ①案１：怪我をした女の子「みなちゃん」を主人公としたストーリー  　例えば、勢い余って階段から転げ落ち、かかとを複雑骨折して3か月ほど車いすや松葉杖の生活を余儀なくされることになった「みなちゃん」が街で様々な困難さに気づく物語。  ②案２：擬人化した街が主人公のストーリー  　例えば、エレベータを擬人化した主人公にし、車いすやベビーカーの人を乗せることが役割なので、元気な人が我先に押し寄せてしまって乗せてあげられないことを嘆いたり、「階段を使える人は、階段を使って！」と語りかけていく物語。  ③案３：案１と案２の折衷案  　例えば、「みなちゃん」が怪我をしたときに、エレベータ等の街の設備とお話が出来る特殊能力を持てるようになり、エレベータ等と会話をしていくという物語。  〇　ストーリーで取り上げたい大切な事項（順不同）  ①障害の社会モデル。何が障害をつくっているかという問いかけ等を通して、社会が障害を作り出していることに気づかせたい！　また、元気な人が障害をつくっている場合もあることやマナーや「やさしさ」だけではないことを伝える。  ②SDGsの「誰一人取り残さない」というスローガン。多様な人が参加できる社会の重要性も含めて伝える。  ③多様な人が社会の中にいることと共に、多様な人が社会参加することの大切さ。  ④「心のバリアフリー」：やさしくすることや悪気がなければ良いわけではないことに気づけるようにする。例えば、点字ブロックの上の自転車を置くことが、バリアをつくっていることになっていることに気づけるようにする。  ⑤多目的トイレ（バリアフリートイレ）の利用について。多目的ではなく、そのトイレでなければ使えない人がいることに気づいて欲しい。  ⑥自分事としての気づき。バリアの問題は、他人事ではなくなく、自分事であり、いつ自分がバリアに遭遇することになるかわからないし、他人のバリアになるかもわからないことに気づくこと。  ⑦県民会議で大切にしてきたことの説明。県民会議では、多様な人が参加して、一緒に考え、計画の段階から一緒に共生社会を作成していくという取り組みを行ってきた。また、当事者と一緒に街点検等を行い、少しでもバリアをなくしていくためのスパイラルアップの取り組み（PDCAサイクルに基づいた取り組み）を行ってきた。さらに、当事者の意見を聞く際には、「聞こえない言葉」を聞く姿勢が大切。声なき声を聞き続けることで、誰一人取り残すことのない社会を実現したいと考えている。 |

|  |
| --- |
| （第３回ＷＧ）  日時　　令和４年４月28日（木）13時00分～15時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  〇　リーフレットに掲載する形式について  ・怪我をした女の子と擬人化した街が登場する折衷案のストーリーを元とする。  ・リーフレットの紙面に掲載できる情報量の関係等から、和久井さん・佐野GL案をベースとしつつ、場面には適宜、ストーリー場面活用等も検討する。  ・誰をターゲットにするか考え、子どもから高齢者までが見やすいものとする。  〇　リーフレット作成に伴うHPの活用について  ・提出していただいたストーリーをHPに掲載する。  ・リーフレットからホームページに誘導し、そこでじっくりストーリーを見てもらえるように工夫する。（リーフレットはあくまでも予告・ハイライト、詳しくはHPを見てもらう。）  ・今後の展開の中で、いろんな人が参加できるような工夫もしていけると良い。（公募でストーリーを募集する、ストーリーの投稿、吹き出しで大喜利をする等）  〇　リーフレットからHPへの誘導方法  ・「詳しくはHPで」「この後どうなる！？」等HPを見たくなるような文言を記載する。  ※リーフレットそのものがつまらないとHPも見てもらえない。また、年齢、生活スタイル等によりHPを見てもらえない可能性もあるため、リーフレットそのものである程度完結する必要がある  〇　リーフレットに盛り込む内容・活用方法について  ・空欄の吹き出しを作り、吹き出しにどのようなセリフが入るのか考えることにより、双方向でUDについて考える機会を設けると良い。  ・県民会議等の情報についてはレイアウトを検討しながら、リーフレットに盛り込んでいく。 |

|  |
| --- |
| （第４回ＷＧ）  日時　　令和４年６月17日（木）13時00分～15時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  リーフレットの構成、掲載内容について検討を行った。  〇　構成について  ・吹き出しは建物、設備、人等様々なものから出したほうが良い。  ＜見開き・表紙など＞  　見開きの地図の面のタイトル部分は、見た人への呼びかけとして「カンナちゃんが住むまちにはたくさんのバリアがありました。いくつ探せるかな？」という仮題名を入れる。  …どこに障害があるか？いくつのバリアがあるか？には、正解があるわけではない。・表紙はやんちゃなカンナちゃんにし、そこからリーフレット内で心の変化を描写できるとよい。  ・怪我が治ったかどうかはリーフレット内には載せないが、HPには掲載があっても良い。  〇　言葉の表現について  ・怪我をしたことで「気づく」という表現を使用する。  ・「やさしい」という言葉の使用は避ける。  〇　内容について  ・吹き出しの文字が入っているところについては解説あり、ブランクのところは解説なしにして、ブランク箇所は自分で考えて書いてもらう形式にする。  ・解説がないと独自の考え方でリーフレットを見てしまう可能性があり、本来の趣旨と逸れてしまうため、ある程度解説は必要。  ・学校等で先生が生徒に教える時に、解説がないと本来伝えたいことを先生に理解してもらえず、子どもたちにも分かってもらえない。  ・完全にクイズ方式だと中身を見てもらえない可能性があるため、パンフレット単独でも成り立つ程度に解説は必要である。  ・HPにノーヒントバージョンを掲載し、学校教育等の場で活用できるようにしたい。（吹き出しを貼れる教材キット等も作れると面白い。）  〇タイトル・サブタイトル  　だれひとり取り残さない・ともに生きる社会に向けて　～バリアフリーとSDGｓ～  〇　説明部分の推敲について  ①　県民会議とバリアフリーの街づくり  「県民会議では、県民、事業者、行政が協働して、ともに生きるための社会づくりに取り組んでいます。「みんなで創るバリアフリーの街づくり」として提案をしています。」等  ②　心のバリアフリー  ・説明が長くなりすぎると読んでもらえない可能性がある。  ③　その他  ・「もっと知りたい方へ」→「くわしくはこちら」にする。  ・QRコードと検索ワード（例：「神奈川県　バリアフリー」）を、併せて掲載する。  ・PDF版では、ホームページのリンクを貼り、リーフレットから該当ページにとべるよう  にする。  ・５つの柱については文章ではなく図やイラストで表現した方が分かりやすい。また、  理解しやすいよう、図→イラストとし、イラスト下に柱の文字を入れるとよいのではな  いか。 |

|  |
| --- |
| （第５回ＷＧ）  日時　　令和４年７月22日（金）14時30分～17時15分  会場　　神奈川県庁東庁舎　41会議室  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員  概要  〇　県民会議についての説明部分  ・５つの柱が提案であるということを一言入れたい。  ・提案の説明は３行程度にする。「県民、事業者、行政が協働して」というところはぜひ入れるべき。  ・表紙に母とカンナ  母：「みんなが生きやすいまちになるといいわね。急がずにゆっくり歩いて、いろんなことを知っていこうね。」  カンナ：「たくさんの人の思いや大事なことに気づけるかも。まちのバリア体験隊に私も参加したいな」  〇見開き面（吹き出しをつける場面について）  ・４つのバリア（物理、制度、文化・情報、意識）を入れる。  ・物と人で吹き出しの縁取りの色を変えるのはどうか  ☆物理のバリア（車いす、ベビーカー等）  　①エレベーター：「エレベーターがないから上まで行けない」  　②トイレ  　③お店の段差・階段  ☆制度的なバリア  　①補助犬：補助犬同伴だとレストランや病院に入れないところがある  　②入試・試験等：「試験受けさせてもらえなかった」  ☆文化・情報面のバリア  　①文化：県有文化施設（博物館等）  「展示の位置が高くて見えない」  ②情報：音声アナウンス　※場面は要検討  「ガイドツアーは音声でしかやってない」「音声アナウンスが聞こえないからなぜ電車が止まっているのか分からない」「防災無線が聞こえないから避難できない」  ☆意識上のバリア  　・具体的にどの場面に組み込むかは今後検討。  ・「怪我をして車いすを使うようになっただけで、私は私で変わらないのに、私だけ世の中から乗り残されてしまったみたいに感じてとても悲しくなっちゃった。」  ・「あなたのその行動がバリアを作っている」  ・意識上のバリア単独ではなく、他のバリアとセットで表現する。  〇　視覚障害者誘導ブロック（上に自転車が置かれていて通れない）、歩きスマホ（白杖の人とぶつかりそうになっている）、等は、吹き出しは付けずに見開きイラスト内に入れる。  →吹き出しのついている場面は全体で８～９個。  　　・詳しい説明・解説はHPに掲載する。  〇　心のバリアフリーの説明部分  ・原案最後から４行目以降の「「共生社会」っていうんだそうだけど、車いすに限らず…」は入れる。  ・リーフレットのタイトルに「SDGs」と入っている以上、リーフレット内でSDGsについて触れる。  ・「共生社会」→学習指導要領に書かれている表現なのでそのままにする。  ・「バリアフリーのSDGs」→より分かりやすい表現に変更  ・行政、県民、事業者の協働はとても重要なことであり、同じ立場でともに推進していることを示せるようなシンボリックなイラストがあるとよい。（例：みんなが手をつないでいる感じ）  〇　ホームページに掲載する内容について  ・見開き面の事例(リーフレットでは解説のないもの等も)について、説明や解説等  ・ストーリー（吉富さん、関根さん）   * 県民会議の委員のコメントや意見等（知ってほしいこと等） |